

福岡生まれ、福岡育ち。“地元”の国家公務員です！

「地元を選んだ理由」

Q : 地元を選んだ理由を教えてください。

A : 福岡生まれ、福岡育ち。

福岡で生まれ育ち、高校生の頃から公務員を志望していました。今はJR博多駅近くの

合同庁舎の中にある「九州経済産業局」に勤務しています。当局は経済産業省の施策を九州で展開するブロック機関で、経済・産業の発展、鉱物資源やエネルギーの安定・効率的な供給の確保に向け取り組んでいます。自治体などとの人事交流の際に転居することもあります。九州ではこの福岡市の庁舎が唯一の勤務場所。国家公務員（一般職）として働いています。

福岡は実家があり、大学時代を過ごしたので友人も多くいます。大好きな街でこれからも暮らしたかったので、地元の自治体や国の他のブロック機関を広く志望していました。当局を選んだ理由の一つが、東京・霞ヶ関にある経済産業省への本省出向があること。民間企業でいう「本社」で2年程度勤務する制度ですが、私としては「東京勤務後にまた福岡に帰って来られるんだ！」と魅力に感じました。

国全体の施策に関わる仕事ですし、出向して戻って来られている先輩からは大変だとも聞いていますが、良い経験として自分の幅を広げられる気がして。幸い、他の官庁からも内定をいただきましたが、福岡を勤務の中心にしつ

つ、外への扉も用意されている

ことは自分の選択の中で大きかったです。



Q : その仕事を選んだ理由は何ですか？

A : 先輩がまぶしく見えて…！

当局の業務説明会に参加した際、先輩職員の方が生き生きと仕事のことを話していたのが印象的でした。庁内には机が並んでいる各課の執務室とは別の「クリエイティブルーム」というスペースがあります。来庁された方との打合せに使える広めのテーブルや、集中して作業するためのモニターがあったりと、“お役所”にあまりない雰囲気の場所なのですが、説明会ではその明るい雰囲気もあって先輩が本当にまぶしく見えて…！

また、当局の場合、経済産業省の他の地方ブロック機関の中でも珍しい「国際部」という部署があります。アジアへの玄関口として、経済交流や企業の海外展開支援、九州への投資促進などに取り組んでいる部署で、大学時代に力を入れていた英語を生かすことができるというのも当局を選んだ理由の一つです。

今は資源エネルギー環境部で自治体への交付金を扱う部署にいますが、入省1年目は運が良いことに国際部への配属でした。しかも、九州・韓国・中国の政府、自治体、経済団体、企業などが一堂に会する「環黄海経済・技術交流会議（「かんこうかい」と読みます。会合は3か国の間にある「黄海」を取り巻く経済圏域の発展・深化を目指す交流のステージとして2001年に始まったそうです！年1回、場所は持ち回りで開催されています。）」という大きな会合が九州・大分県で開催された年！

コロナ禍の中止やオンライン開催を挟んで現地開催は実に7年ぶりで、私も応援として事前準備に関わりました。韓国、中国の要人をお招きする重要な会合ですので責任を感じましたし、応援ながらも業務に携わることができたのは本当に良い経験でした。

今振り返っても大変な業務でしたが、作業の中で先輩からは本省の業務との関連などを教わることもありました。この時の準備については自分でも「成長できたんじゃないかな…？」と思っています。



Q : 今後のキャリアパスについて教えてください。

A : 経験豊富なゼネラリストを目指して。

経済産業局の仕事内容は国際部以外にも、中小企業の支援や資源・エネルギーに関する規制業務、組織の管理業務など本当に幅が広いです。キャリアパスとしては、幅広い業務を経験しながら、**ゼネラリ**

ストとして係員→係長→課長補佐→管理職…とステップアップしていく流れが一般的です。

私はこれまでの配属では企業との接点がありません…今後はそんな部署も経験できれば自分の範囲が広がると考えています。大学では環境問題やESG（環境・社会・ガバナンス）を学んでいましたので、

リサイクルやカーボンニュートラルの分野にもいずれ取り組んでみたいですね。

それからもう一つ、東京の本省での勤務に挑戦して、スピード感ある業務を肌で感じてみたいです。出向の際には大好きな九州を一時的に離れることとなりますが、他の地域に触れてみたり、外から九州を見たりすることで、良い点や課題にもっと敏感になれるんじゃないかなと。

九州の元気に貢献できるよう、たくさんのことを経験していきたいです。

おおしま

経歴：2024年に新卒で経済産業省 九州経済産業局へ入省。



※キャリアサイト「My CareerStudy」に掲載していた記事を再掲しています。